

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームふぁそら（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 8年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	十分な療育スペースにて、安全面に配慮した療育を行うことができる	・安全点検やヒヤリハットの共有にて、安全な療育を行えるように取り組んでいる。	・今後も引き続き、安全な療育支援が行えるように取り組みます。
2	療育後には次の目標を保護者と共有する等、保護者と支援者が同じ目標に向かえるように取り組んでいる	・フィードバック時には、療育内容だけではなく、目標や評価を保護者と共有できるようにしている。	・面談や相談の時間を十分取ることができるように、職員から保護者に働きかけます。
3	子ども一人一人に合わせた療育を行っている	・1対1の療育の中で、子どもの発達段階や目標を把握し、支援内容を決定している。	・職員ごとの支援に差が起きやすいため、情報共有を密に行い、今後も一貫した支援を行えるように取り組みます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって、療育内容や技術の差が大きい	・1対1で療育を行うことが多く、療育中の教育が十分に行えていない。	・勉強会を通して、職員が支援技術を高められる機会を設けます。 ・複数人で療育を行える場を増やし、支援の質を高めます。
2	面談や情報共有を望む保護者に対して、職員と話す時間を十分に設けられていない	・家族支援等で面談を行う取り組みはあるが、保護者に十分に伝えられていない。	・面談等を必要とする保護者には、職員からも声をかけることで、気軽に話せる環境を作ります。
3	子どもが療育室の外にいつでも出られる環境のため、安全面で不安がある	・玄関の外が駐車場のため、事故の危険が高い。 ・必要に応じて鍵をかけることもあるが、子どもが開けられる高さに鍵がある。	・子どもの手の届かない場所にも鍵を付け、状態に合わせて使用することで、安全に安心できる環境を提供します。 ・一人で玄関から出ることがないように、声掛けや見守りを徹底します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	発達支援ルームふぁそら（児童発達支援）					公表日	令和8年2月6日	
					利用児童数	28名	回収数	9件
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○				・1度に利用する人数が2、3人のため、大きく動くことができる。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	○				・1対1で職員が付くため安心できる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○				・運動と机上活動のスペースがある。 ・鍵をかけるなど、事故防止のために検討してほしい。	・より安心して利用していただけるように、鍵の設置を検討します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○				・建物の構造上、療育室が暗く感じる。	
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○				・職員により差があり、コミュニケーション面の支援で不十分と感じる場面がある。	・一人一人に寄り添った支援を行えるように、職員教育を行います。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	○					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○				・親身に話を聞いてもらっている。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○					
保護者への説明等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	○				・時々イベントがあればいいと思う。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	○					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	○					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	○				・個人面談などがあると心強い。	・療育中などの時間に面談が可能であることを保護者にお伝えし、相談等がしやすい環境を整えます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○				・もう少し、専門的なサポートがあればと思う。 ・アドバイスに感謝している。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			○		・受給者証のない兄弟も参加できるイベントがあればうれしい。 ・弟がいて外で待つことになるため、しんどさがある。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○				・フィードバックの機会はあるが、落ち着いて話を聞くことが難しい。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	○			○	・ホームページやSNSは分からないが、お便りはもらったことがある。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。				○	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○			○	・事故が発生していないので分からない。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	○				・子どもはとても楽しみにしている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	○				・とても楽しみにしており、もっと通いたいと話している。
	29	事業所の支援に満足していますか。	○				・預かり型や送迎があればうれしい。 ・家庭ではできない支援で大変助かっている。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達支援ルームふぁそら（児童発達支援）	公表日	令和8年2月6日
------	---------------------	-----	----------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・利用児に合わせて、スペースを区切ったり集団遊びを行い、安全に活動できるように工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・1対1での療育を基本とし、こどもの状態に合わせて職員数を増やす等の対応を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・消毒や清掃を適宜行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・こどもの状態や活動内容に応じて、個室を使用したり、療育室を区切っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向け評価を実施し、公表している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法人内で定期的な勉強会を実施している。 ・外部勉強会への参加を促している。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・職員のアセスメントを基に、児童発達支援管理責任者が計画書を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画書の内容は職員間で共有できている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

坂の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・職員同士が話し合って、目標に合った支援内容を決定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・支援目標に応じた活動プログラムを決定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・基本的には6か月に1度の見直しとし、必要に応じて見直し時期を早めることで対応している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			・地域との繋がりが希薄となりやすいため、積極的な連携が必要。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・必要に応じてアセスメントシートの作成等を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・担当者会議等で連携を行っている。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○				
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・療育の最後にフィードバックの時間を設けている。	・面談実施について、保護者への周知が必要。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○				
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・療育中や療育後に、相談をお受けできる時間を作るよう心掛けている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・別法人のイベントにて、家族やきょうだいと一緒に活動する機会を提供している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・「奏音NEWS」やホームページ、Instagramにて、情報を発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・事業所単位でのイベント招待は行っていない。 ・別法人のイベントにて補っている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・児童表の記入により、子どもの状況を確認している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・食事場面は設けていない。 ・活動中に使用する物品のアレルギーに関しては、保護者に確認を行っている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・月に1度、虐待防止委員会を実施している。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・現在、身体拘束の必要な児は利用していない。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームふぁそら（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	129	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 8年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人に合わせた療育を行っている	・1対1の療育の中で、子どもの発達段階や目標を把握し、支援内容を決定している。	・職員ごとの支援に差が起きやすいため、情報共有を密に行い、今後も一貫した支援を行えるよう取り組みます。
2	療育後は次の目標を保護者と共有する等、保護者と支援者が同じ目標に向かえるよう取り組んでいる	・フィードバック時には、療育内容だけではなく、目標や評価を保護者と共有できるようにしている。	・面談や相談の時間を十分取ることができるように、職員から保護者に働きかけます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって、療育内容や技術の差が大きい	・1対1で療育を行うことが多く、療育中の教育が十分に行えていない。	・勉強会を通して、職員が支援技術を高められる機会を設けます。 ・複数人で療育を行える場を増やし、支援の質を高めます。
2	情報共有に関して、保護者から不安の声があった	・保護者と十分にコミュニケーションを取る前に、支援を行う場面があった。 ・事業所間の職員異動がある。	・職員間で十分に情報共有を行うと共に、安心して事業所を利用して頂けるように、職員全員が共通の意識を持って支援を行います。
3	療育の人数や活動によっては、療育室の広さが不十分	・運動のニーズが高い児が複数人で同時間帯を使うと、活動場所が足りない場面がある。	・小集団で同じ活動を行う、部屋を区切って活動を行う等、子どもの発達段階や目的に合わせた工夫を行います。 ・他児の少ない時間帯の療育を案内する等、個々の希望に合わせた療育が行えるように保護者に提案します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	発達支援ルームふぁそら（放課後等デイサービス）
------	-------------------------

公表日 令和8年 2月 6日

利用児童数

129名

回収数

43件

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○				・十分に感じる。 ・3人療育だと狭いと感じる場面がある。	・職員同士が声を掛け合い、十分な支援を行えるスペースを確保できるように気を付けます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	○				・1人または2人の職員で対応している。 ・たまに保護者との話が長引くと、職員より子どもの人数が多いことがある。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○				・子どもが入っては駄目な扉に入ろうとしてしまうので、気になる。 ・個室での活動内容が分かりづらい。	・子どもに分かりやすい環境となるように、提示の方法を検討します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○				・怪我をしないように工夫されている。 ・活動後に手を洗うように声掛けをしてほしい。	・待合室に消毒液を設置し、必要に応じて自由に使用できるようにします。
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○				・支援計画書ができている。 ・計画書の公表が遅いと感じる。	
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	○				・丁寧に対応されていると感じる。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○				・毎回違う活動が取り入れられている。 ・子どもの発案を元にするが多く、同じ活動をしている時もある。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	○				・機会はないが、必要ないと感じる。	
保 護 者 へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	○					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	○					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	○				・職員の移動があるため、子どもの状態把握に不安がある。	・不安感なく事業所を利用できるように、職員間の情報共有を行います。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○					

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	○				・交流はあまりない。 ・必要ないと感じる。 ・イベントに参加したいが予定が合わない	
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	○					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	○					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○					
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	○					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	○					
	29	事業所の支援に満足していますか。	○					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ルームふぁそら（放課後等デイサービス）		公表日		令和8年 2月 6日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・利用児に合わせて、スペースを区切ったり集団遊びを行い、安全に活動できるように工夫している。	・時間帯によっては、療育質が狭く感じるとご意見があり、今後さらに活動内容を工夫する必要がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・1対1での療育を基本とし、こどもの状態に合わせて職員数を増やす等の対応を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・消毒や清掃を適宜行っている。	・療育後の手洗いについて意見があったため、待合スペースに消毒液を設置する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・こどもの状態や活動内容に応じて、個室を使用したり、療育室を区切っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向け評価を実施し、公表している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法人内で定期的な勉強会を実施している。 ・外部勉強会への参加を促している。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムを作成し、公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・職員のアセスメントを基に、児童発達支援管理責任者が計画書を作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画書の内容は職員間で共有できている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・職員同士が話し合っ、目標に合った支援内容を決定している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・支援目標に応じた活動プログラムを決定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・基本的には6か月に1度の見直しとし、必要に応じて見直し時期を早めることで対応している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			・地域との繋がりが希薄となりやすいため、積極的な連携が必要。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・必要に応じて情報共有を実施している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・児童発達支援との複合型のため、連続した支援が可能。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・事業所の時間外で地域と繋がりのある利用児が多く、改善の要望は出ていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・療育の最後にフィードバックの時間を設けている。	・面談実施について、保護者への周知が必要。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・相談受付や外部研修の案内などで、対応している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 療育中や療育後に、相談をお受けできるよう心掛けている。 家族支援での面談を受け付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談実施について、保護者への周知が必要。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 別法人のイベントにて、家族やきょうだいと一緒に活動する機会を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なご家庭に参加していただくために、活動内容の充実が必要。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 「奏音NEWS」やホームページ、Instagramにて、情報を発信している。 	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 事業所単位でのイベント招待は行っていない。 別法人のイベントにて補っている。 	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 児童表の記入により、こどもの状況を確認している。 	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 食事場面は設けていない。 活動中に使用する物品のアレルギーに関しては、保護者に確認を行っている。 	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 月に1度、虐待防止委員会を実施している。 	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 現在、身体拘束の必要な児は利用していない。 		

事業所名

発達支援ルーム 心あそら

支援プログラム

作成日

年

月

日

法人（事業所）理念	「一人ひとりの色（個性）を大切に」を理念に運営しています。子どもたちが個性という一人として同じではない色や音を放ち輝き、社会の中で素敵なおメロディーを奏でるまで見守り支援していく、奏音はその役割を担ってまいります。				
支援方針	主に感化統合理論に基づいた療育を行っており、前庭覚や固有覚、触覚などの感覚刺激を遊びに取り入れて提供しています。子どもたちが遊びを通して能動的に感覚を入力することで、感覚の偏りを減らし、生活での困難さを改善していけるように支援を行っています。				
営業時間	10時	0分	19時	0分	送迎実施の有無 なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの発達段階に合わせた活動を行うことで、健康な心と体を育て、安心して日常生活を送ることができるよう支援を行います。 ・遊びの中で身体を操作することや、楽しく生活動作を経験することで、食事・更衣・排泄動作など生活に必要な動作が身に着くように目指します。 ・活動を通して、感覚探求の充足や覚醒レベルの安定を図り、生活リズムの安定に繋がります。 			
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの感覚特性を評価し、それを踏まえて環境や活動内容の調整を行うことで、発達の土台を作ります。 ・運動遊びを通して、姿勢の安定や、運動コントロールの上達を図り、日常生活動作の基盤となるように支援を行います。 ・必要に応じて、生活場面で課題となる運動(道具操作や運動課題など)を行い、発達段階に合った練習方法を提案します。 			
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さん自らが活動・環境に関わり、能動的に行動することで様々な経験を積めるように機会を設けていきます。 ・活動を通して感覚入力を行い、周囲から必要な情報を収集し、見通し・予測するための手立てとなるよう支援を行っていきます。 ・発達段階に合わせて、色や数などの概念理解や、文字や計算などの学習課題が習得できるように、遊びやプリント課題を行います。 ・一人ひとりの特性に合わせた情報提示(視覚支援、構造化など)を工夫し、活動やルールへの理解を促します。 			
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と活動を共有しながらコミュニケーションを取ることで、安心して相手との関わりを持てるように促します。 ・動作や場面に合わせた声掛けを行うことで、具体的な事物と言葉の意味を結びつけていきます。 ・ジェスチャーやカードなどお子さんにあったコミュニケーション方法を一緒に考え、生活の中でのやり取りに活かせるように支援を行います。 ・他児とのやり取り場面では、スタッフが仲介して相手の様子や気持ちに注意が向くように声掛けを行い、気付きを助けます。 			
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の発達段階に合わせて、スタッフや他児と一緒に活動に参加する機会を作ることで、社会性の発達を促します。 ・生活場面で取り組む遊びや活動を事業所内で練習することで、安心して活動に参加できるように支援を行います。 ・活動を通してスタッフとの信頼関係を築き、生活場面や将来の心配を聞き取ったり、具体的な練習が行えるようにサポートします。 ・他者との関わりや、スタッフの声掛けを通して、自分の気持ちや行動の理解を深め、場面に合わせて気持ちや情緒の調節ができるように支援を行います。 			
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族が安心して子育てを行うことができるように、生活場面や将来の課題、心配を聞き取り、支援内容の検討を行います。 ・療育内容や本人の様子をご家族にお伝えする時間を設けることで、お子さんの成長への気づきを促したり、支援の共有を行い、家庭と連携して支援に取り組んでいきます。 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・同年代のお子さんや日々の集団生活を楽しく、安心して過ごすことができるよう、他者との関わりや遊びを想定した活動を行います。 ・療育での様子や必要な手立てを園や学校と共有し、共通した支援が行えることを目指します。 		
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議への出席や、園や学校等との情報共有にて、包括的な支援を行える環境を作ります。 ・お子さんの課題に応じて、買い物や散歩などの活動を取り入れ、地域と関わる機会を作ります。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内、法人内の勉強会を月に複数回実施しています。 ・新入職員を対象に、教育プログラムを実施しています。 ・必要に応じて、外部研修の受講を積極的に勧めています。 ・学会等への参加の機会を設けています。 		
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・季節行事(ハロウィンパーティー、クリスマス会など ※事業所毎の開催となります) ・保護者相談会等(定例：就学相談会) ・グループ法人株式会社ToyBoxのイベントへのお誘い 				